

株式会社 二葉

所在地:東京都新宿区上落合 2-3-6

事業内容:繊維染色加工

T E L:03-3368-8133



手染めライフグッズの製造

繊維染色加工業。当社の「**伝統の江戸染色の技法**」を活用し、着物離れの若者にも気軽に使ってもらえ、本物の手染めの良さを実感してもらえる小物、「ライフグッズ」の製造、販売を開始した。また、染色工房の公開もして、染色の普及にも努める。

業況等の動向について

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

元々の始まりは、新入社員教育。新入社員が染めの技術を覚えて、一人前の職人になるのには何年もかかる。未熟なうちに着物を染めるということになると、もし失敗した場合、一反まるごと無駄にしてしまうことになる。それを小物から始めることによって、その無駄を防ぐことができる。そして小物の持つ身近さを感じ、また製品の全体を感じる取ることができる。教育資材として適当であった。参入時には特にマーケティングはしていないが、見本市に出展。その時の来展者の反応や要望を見て参入を決定した。

参入して最も成果のあったこと及び最も困難だったこと

成果のあったこととしては、今まで販売は呉服の流通ルートのみであった。それが商品の多様化で、販路が拡大したことにより今までの問屋業界の縛りを離れ、比較的自由に振る舞えるようになった。それにより、リスク分散も図れるようになった。困難だったのは、ライフグッズを製作することにより、2次加工が必要になり在庫を持つ必要が出たこと。また価格を下げるために、商品を小さくする、卸を通さずに直接小売店に出すということをした。価格はあまり安くしても機械プリントを疑われ、価格決定は難しい部分である。

業況等について

本業の業況は横ばいで、呉服は苦戦している。ただ、30～40代の比較的若い層に日本文化に対する興味、見直しの機運が生まれ、着物が注目され、従来の60代以上の客層の減少分を補ってくれている。

新規参入事業に関しては、現在、売上高 20,000～30,000千円(売上高構成比30%弱)と、こちらの業況はやや不調である。東日本大震災の影響は大きく、国内の一般消費の低下、また美術館等への公共施設関係の需要も落ち込んだ。外国人の需要も大きかったのですがこちらも萎縮してしまった。

今後の展望・見通し

今後は現状維持で推移すると予想している。海外の輸出品が伸びる。ヨーロッパを中心に日本に対する関心が増しているのを感じる。日本の商品に対する信頼もある。

メリット・デメリット

メリットとしてはリスク分散が図られる。発想法が柔軟になった。販売も問屋を使うのではなく小売店を使うことにより、お客さんにより近づき、直接作ったものがどのように使われ、どのように効果をあげているかも実感できるようになった。元々物作りの工房なので、工房を公開して、そこで染色体験教室を開いて技術自身を商品化するという、新しい道も切り拓いていった。デメリットは未経験のことが起きるので、それに対する対応力が、また費用的な負担が生じるのでそれをこなす体力が必要。最初に見本市に出展した際も、どういふふうに出展したらいいのかわからなかった。

異業種参入時のアドバイス

手染め加工の工場という原点、それを曲げないことが重要である。今までのやり方に固執して売り上げを下げたこともあった。どこからか、それを安く染められる機械染めへのオファーも舞い込んだ。しかし、それをしてしまうと、お客様に手作りの良さは伝えられないことになる。守るべき自社の理念をしっかり持ち、自社の技術の根幹から離れず、新しいものに参入したから一般に受け容れられたと思う。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度 経済産業省地域資源認定事業

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

小規模な物づくり事業者にとって、商品化ができて商品販売するのは難しい。展示会でヨーロッパに行くことが多かったが、小規模な製作者と、小規模な小売業者がうまくマッチングして、両方共に元気。日本でもそういうことができるように、小規模な製作者と、小規模な小売業者の情報交換がなされるような行政の仕組みがあるといいと思う。

会社概要

設立:昭和55年4月(創業 大正9年)

資本金:10,000千円

従業員数:14名

URL: <http://www.futaba-en.jp>